

令和三年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程 (追検査)

Ⅱ 国 語

注意事項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は問四までであり、1ページから13ページに印刷されています。
- 3 答えは、解答用紙の決められた欄に、記入またはマークしなさい。
- 4 数字や文字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、その番号の○の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目(例：

--

)がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の1～4の各文中の——線をつけた漢字の読み方を、ひらがなを使って現代仮名遣いで書きなさい。

- 1 日本の文化を紹介する。
- 2 敵からの攻撃をかわす。
- 3 発想の転換が求められる。
- 4 物事の真相に迫る。

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a ハイインを分析する。
- 1 ショウハイがつく。
 - 2 ハイで呼吸する。
 - 3 ハイキンを伸ばす。
 - 4 レイハイのために教会へ向かう。
- b お客様を車でソウゲイする。
- 1 フクソウの乱れを直す。
 - 2 ソウコで大切に保管する。
 - 3 手紙をユウソウする。
 - 4 雑誌のソウカンを記念して催しが行われる。
- c 午後十時にシュウシンする。
- 1 マイシユウ土曜日にピアノを習っている。
 - 2 彼の活躍にカンシユウがわいた。
 - 3 バンシユウらしい寒さが身にこたえる。
 - 4 無事にシユウシヨクが決まる。
- d 友達が心のササえだ。
- 1 キテキが鳴り響く。
 - 2 シテンに異動する。
 - 3 この土地をジユクチしている。
 - 4 リヨビを計算する。
- (ウ) 次の各文の□にはすべて同じ漢字一字が入る。その漢字として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

表面を□らかに整える。

□車を使って荷物を上げる。

雪の積もった斜面を□る。

ピエロの□稽な踊りを見る。

- 1 柔
- 2 下
- 3 滑
- 4 登

(エ) 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 明日、私から連絡いたします。
- 2 月末にうかがいます。
- 3 先生が生徒に意見を申し上げた。
- 4 お客様がお菓子を召し上がった。

(オ) 次の文章中の に入れることわざとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

テーブルの上にケーキを置いたままで、甘いものに目がない妹に一人で留守番をするように頼むなんて、 だと思った。

1 猫に小判
2 猫の首に鈴を付ける
3 猫の額
4 猫にかつおぶし

(カ) 次の文章は、ある古典文学作品について説明したものである。その古典文学作品の作者として最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

「いづれの御時おほしどきにか、女御によしご、更衣かぎいあまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなき際きはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。」という書き出しで始まる、平安時代に書かれた物語である。ほぼ同時代に活躍した女性によって書かれた「枕草子まくらものぢょうし」と同じように、人々に親しまれている。

1 紫式部むらさきしきぶ
2 大伴家持おおとものやかもち
3 松尾芭蕉まつおのばしょう
4 紀貫之きのつらゆき

(キ) 次の俳句を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

星野 立子ほしの たちこ

- 1 緑あふれる中でにぎやかに食事ができることへの感動を「美しき」という語句で暗示しつつ、比喩を重ねることによって印象的に描いている。
- 2 夏料理のみずみずしく鮮やかな色彩しよくさいを「緑走れり」という語句で効果的に表しつつ、イ段の音を繰り返すことによってリズムよく描いている。
- 3 料理を前に走りまわっている子どもの姿を「走れり」という語句で親の目を通して捉えつつ、体言止めを用いることで躍動的に描いている。
- 4 旬の食材しゅんを使った料理の食感を「夏料理」という語句で季節を明確に示して表しつつ、漢字を多用することで重厚感をもたせて描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大学の競技ダンス部に所属する一年生の「大船」^{おおふね}は、部員たちと夏合宿に来ている。四年生の「飯田先輩」^{せんぱい}や三年生の「ポッキー先輩」^{せんぱい}たちが見守る中で、二年生の「ピノ先輩」^{せんぱい}「フジコ先輩」^{せんぱい}、同学年の「福田翔」^{ふくだしやう}「弓子」^{ゆみこ}たちとともに、ナチュラルターンというステップを繰り返す、ボックスという練習に取り組んでいた。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(二)宮にのみや 敦人あつと 『競技ダンス』へようこそ」から。一部表記を改めたところがある。

(注) ラテン練ラテンダンスの練習のこと。

モダン練モダンダンスの練習のこと。

ロアー膝を曲げてしゃがみ込むような体勢のこと。

オールポートを漕ぐときに使う道具のこと。

ニヒル 無感動で冷めた印象を与えるさま。

壁練 Ⅱ ボックスに取り組んでいる人の周りを囲み、その場で立ったままする練習のこと。

アフリカ先輩 Ⅱ 「大船」と同じ競技ダンス部に所属する二年生の部員。

(ア) ——線1 「お前ら、なめてんの？」とあるが、ここでの「ポッキー先輩」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 このまま練習を続けても成果は見込めないといい切った「飯田先輩」の言葉を受けて、練習に対する姿勢で欠けている部分があることを後輩たちに気づいてほしいという思いをこめて読む。
- 2 これ以上練習しても意味はないと突き放した「飯田先輩」の言葉を受けて、成長することを諦めて^{あきら}いる後輩たちの能力を引き出したという思いをこめて優しく語りかけるように読む。
- 3 全くやる気が感じられないと言いつつ「飯田先輩」の言葉を受けて、集中力を欠いた後輩たちの練習に対して何も助言することなどないという気持ち^{あきら}が伝わるように荒々しい調子で読む。
- 4 指導に従わないのなら一緒に練習しない方がいいと言った「飯田先輩」の言葉を受けて、助言を無視して自由に練習していた後輩たちに対して威厳を示そうという強い決意をこめて読む。

(イ) ——線2 「ポッキー先輩は拳を掲げ、熱弁を振るった。」とあるが、そのときの「ポッキー先輩」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 周りの状況を見て、笑顔を失っている人の欠点を見つけて指摘^{してま}し合うことによって、苦しいボックスもみんなでも乗り切れると後輩たちに情熱的に語りかけている。
- 2 周りの人に注意を向け、苦しそうな人に笑顔を見せて元気を分けることで、ボックスを乗り切ることで、周りの人に注意を向け、苦しそうな人に笑顔を見せて元気を分けることで、ボックスを乗り切ることで、周りの人に注意を向け、苦しそうな人に寄り添って直接励ましの言葉をかけながら踊ることを通して、ボックスを乗り切る仲間になれると後輩たちに熱く語りかけている。
- 3 周りを意識して、辛そうな人に寄り添って直接励ましの言葉をかけながら踊ることを通して、ボックスを乗り切る仲間になれると後輩たちに熱く語りかけている。
- 4 周りを気にかけても自分のことに集中し、先輩の指摘を生かしながら楽しんで踊ることで、苦しいボックスもみんなでも乗り切れると後輩たちに熱く語っている。

(ウ) ——線3 「みな気持ちは同じなのだろう」とあるが、そのときの「みな」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ボックスがやり直しになり、先輩たちが自分たちの努力を認めてくれないことに嫌気がさすとともに、先輩への不信感がある中で笑顔で踊り切る自信を失い、落ち込んでいる。
- 2 ボックスのやり直しを指示され、自分たちの頑張りが否定されたことに怒りを感じるとともに、無理な曲数を踊り通すように命じられたことに納得がいかず、いらだっている。
- 3 ボックスのやり直しを指示され、先輩たちの期待を裏切ったと気づいて申し訳なく思うとともに、期待に応える実力が自分たちにはないと痛感し、晴れない気持ちを抱えている。
- 4 ボックスがやり直しになり、こなした練習が無意味になったことに落ち込むとともに、体力面に不安がある状態で笑顔を保って踊り切る自信が持てず、気持ちが沈んでいる。

(エ) ー線4「不思議な感覚だった。」とあるが、そのときの「大船」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 苦しみながらも必死に踊る中で、目が合ったフジコ先輩の笑顔に励まされることによって苦しさを意識しなくなるとともに、自然と息が合っていき、楽に踊れるようになっていたことを実感している。
 - 2 苦しみながらも懸命に踊る中で、フジコ先輩と息が合っていくことによって余裕が出てくると同時に、先輩が笑顔になったのを見て自身の努力を認められたことがわかり、踊る楽しさを実感している。
 - 3 苦しみながらも踊り続ける中で、フジコ先輩から励まされたことを喜び、息を合わせて踊ることの楽しさを実感する一方、自分以外のみんなが笑顔の効力に気づいていないことを不自然に思っている。
 - 4 苦しみながらも踊り続ける中で、普段はあまり話さないフジコ先輩から笑顔を向けられたことに驚くとともに、自分だけを勇気づけてくれ、楽に踊れるように導いてくれることを疑問に感じている。
- (オ) ー線5「ボックスは活気づき、みんな目を輝かせている。」とあるが、そのときの「みんな」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 先輩から認めてもらうことを目指して努力を積み重ね、同じ苦しみや喜びをみんなで体験できたことによって、全員でボックスを乗り切って先輩を見返したいという思いが強まっている。
 - 2 お互いに行けるようになった部分に目を向けるよう意識するうちに、練習を楽しく余裕が生まれていく体験をみんなでも共有することで、全員でボックスを乗り切る勇気が湧いてきている。
 - 3 それぞれが苦しんでいる仲間を探し出して励まそうという思いで踊り、同じ思いや体験をみんなと分かち合うことを通して、全員でボックスを乗り切ろうという気持ちが高まっている。
 - 4 体の痛みを抱えながら練習を続ける中で励まし合って苦しさに耐えてきたが、全員でボックスを乗り切れそうだとわかり、ようやく辛い練習から解放されるという喜びに包まれている。
- (カ) ー線6「今、僕はひとりじゃない。」とあるが、そのときの「大船」を説明した次の文中の I ． II ．に入れる語句として最も適するものを、本文中の ▼ から ▲ までの中から、それぞれ二字で抜き出し、そのまま書きなさい。

誰かが「ファイト。」と叫ぶと、 I ． するようになり「ファイト。」と返すことが繰り返される中で、ボックスを通して II ． となったダンス部の一員であることをかみしめている。

(キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 「ポッキー先輩」の助言を聞き、衝突していた部員たちがお互いに本心を打ち明けることでそれぞれの良さに気づいていくさまを、さまざまな登場人物の視点から重層的に描いている。
- 2 「飯田先輩」からの指摘を受け、先輩たちを超えるという目標に向かって自らの技術を磨くとともに心を一つにしていく部員たちの姿を、会話文を多用しながら感動的に描いている。
- 3 「ポッキー先輩」の言葉を聞き、苦しい練習の中でお互いを思いやることの喜びや大切さを実感した部員たちが結束を強めていくさまを、「大船」の視点を軸に生き生きと描いている。
- 4 「飯田先輩」からの言葉を受け、積み重ねた努力は報われると気づいた「大船」が部員たちをまとめていく中で大きく成長していく姿を、比喩を用いながら臨場感豊かに描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(更科^{さらしな} 功^{いさお}「若い読者に贈る美しい生物学講義」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 抗生物質^{II}細菌などによって作られ、他の微生物などの機能を抑制する物質のこと。

(ア) 線1「いろいろな種類の生物がいた方がよい。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 不測の事態が起きたときに大きな被害を回避でき、生態系を存続していくことができるから。
- 2 競争によって刺激を与え合うことを通して、強い種へと発展する可能性を秘めているから。
- 3 助け合いの精神を育むことを促し、環境の破壊を止めて回復させる効力が期待されるから。
- 4 さまざまな性質が混じり合うことによって、互いの弱さを補って生存できる効果があるから。

(イ) 線2「生物多様性が高い」とあるが、それを説明した次の文中のⅠ・Ⅱに入れる語句として最も適するものを、本文中の▼から▲までの中から、それぞれ三字で抜き出し、そのまま書きなさい。

単純に生物の種類が多いという意味だけではなく、それぞれの種のⅠが high ために生態系のⅡが高く保たれている状態のこと。

(ウ) 線3「このような生物多様性を減少させる活動」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ヒトが、自分たちが住みやすいように緑豊かな森林を開拓していく中で、食用に適した生物を乱獲するだけでなく意図的に繁殖させていった結果、他の生物を死に絶えさせてしまった行いのこと。
- 2 ヒトが、自分たちの食料を大量に生産するために森林を破壊していった結果、大きな環境の変化に適応できなかつた多くの生物は絶滅したため、弱肉強食の流れを加速させてしまった行いのこと。
- 3 ヒトが、自分たちの生活に危害を加えるような生物を捕獲するとともに、大量に発生していた生物も美しい自然を守るために駆除したことにより、さまざまな生物を絶滅させてしまった行いのこと。
- 4 ヒトが、自分たちの生活を発展させるためにさまざまな生物が住む森林を農地などに変えただけでなく、食べるために生物を乱獲したことにより、多くの生物を死に追いやってしまった行いのこと。

(エ) 線4「これも究極的には、ヒトにとって役に立つ」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 人類が生きていく際には、きれいな水や空気のように物質的なものだけが必要となるのではなく、美しい景色に触れる体験のように精神的豊かさを追求するものも大切になるということ。
- 2 誰にでも価値がわかるようなものは言うまでもなく、自分にとっての価値がわからないようなものであっても、人類全体にとっての必要性を見つけ出すことはできるはずだということ。
- 3 今生きているヒトにとって必要不可欠であったり、よりよく生きていくために大切であったりすることと同じように、今は役に立たなくとも将来的に重要になる可能性があるということ。
- 4 これから先どのようなものが必要かわからないが、今生きているヒトが必要としているものは将来も役に立つに違いないので、大切に受け継ぐという行為が、自分が価値を持つということ。

(オ) —線5「ヒトとは無関係に、地球の生物システムそのものが貴重だから、という考え」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ヒトが生き延びていけるかどうかとは無関係に、地球上に生きている生物の命は尊く守るべきだという考えは正しいので、できるかぎりすべての命を対等に扱うように心がけるべきだ。
- 2 ヒトの過去の行動が正しかったかどうかとは無関係に、今までヒトが作り上げてきたものを否定することは現実的ではないため、今後も心地よく暮らせることを第一に考えていくのがよい。
- 3 ヒトがどのように生きてきたかに関係なく、生態系が構築されてきたという事実自体が素晴らしいことであり、生態系を維持し続けるためにはヒトが犠牲を払うこともやむを得ない。
- 4 ヒトにとって有益かどうかに関係なく、生態系そのものに価値があるので守るべきだという意見は素晴らしいと思うが、ヒトが生きていく以上はすべての命を同等に扱うことは困難だ。

(カ) 本文について、中学生のAさん、Bさん、Cさんの三人がグループで話し合いをした。次の文章は、そのときの一部である。話し合いの中の□に入れるものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

Aさん この文章の前半では、干ばつが起きた場合を仮定して、いろいろな種類の生物がいた方がよい理由について述べられていました。

Bさん また、いろいろな種類の生物がいる状態を「生物多様性」と呼ぶことを示した上で、生物多様性が高いとはどういうことかについても、わかりやすい例を挙げて説明していましたね。

Cさん さらに、爆発的に増えたヒトが、生物多様性を減少させていることにも触れていました。

Aさん 前半の話題をふまえた上で、「なぜ生物多様性を守らなくてはならないのだろうか。」と問いを提示し、「この問いに答えることは、実はそう簡単ではない。」と筆者は述べていました。なぜ簡単ではないのでしょうか。

Bさん それを考えるために、本文で述べられていた生物多様性を守らなくてはならない理由を整理しましょう。まず挙げられていたのは「ヒトにとって役に立つ」というものでした。そして「ヒトとは無関係に、地球の生物システムそのものが貴重だ」という考えもありました。

Cさん 筆者はその考えを提示しながら、昔のような生態系を回復させるために、ヒトに危害を加えるようなものを取り入れるべきかを、オオカミの例を挙げて話題にしていました。

Bさん その例からわかったことは、ヒトのことだけを考えても、逆に自然のことだけを考えてもヒトは地球上で生きていけなくなるかもしれないということでした。

Cさん どちらに偏っても生態系は不安定な状態になり、危機的な状態を招く可能性があります。

Aさん だからこそ、□が大切であり、「なぜ生物多様性を守らなくてはならないのだろうか。」という問いに対して「唯一の正解はない」ために「問いに答えることは、実はそう簡単ではない。」ということになるのですね。

- 1 時間をかけて話し合っ一つの見解にまとめること
- 2 いろいろな事態を想定してさまざまな意見を持つこと
- 3 すべてのヒトが納得できる方法を考えて実践すること
- 4 自然を守るために新たな生態系サービスを作ること

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「呉二」は夢の中で、前世で犯した悪行によつて翌日の午の刻（午前十一時～午後一時）に雷に打たれると「神明」から告げられた。

呉二、夢覚めて思ひけるは、我、家にありて雷死にあはば、母を驚かすのみならず、その嘆きもうたた深かるべしと、朝とく、母に膳をたてまつりて、申し請けけるは、「用のこと候へば、しばらく妹の所へ参りたく侍るなり。」御いとま給はれ。」と言ふ。母、固くとどめて許さず。とかくして、すでに午の刻に及びければ、四方にはかに真つ暗になり、雷の声しきりにとどろきければ、呉二、いよいよ母を驚かさんことを恐れて、ひそかに戸を閉ぢて、野へ走り出で、草の上にひざまづき、天の罰を待ち居たり。しばらくして、雷の声もたちまち止み、黒雲も晴れて、元の青天になりければ、呉二、幸ひに禍ひをまぬかれぬと思ひて、おのが家へぞ帰りける。

なほいぶかしく思ひければ、母にあへて語らざりしが、その夜、また神明枕上に立つて、のたまひけるは、「汝、昨日すでに死すべかりしかども、汝が平生は至孝、その上昨日のありさま、危急存亡のときにおいて、能く母を驚かさざるを以て思ひとす。言語道断の篤孝なる故に、天帝ことに御感あつて、宿惡をなだめ給ふなり。今日よりのち、いよいよ孝行のまことをはげまし、つつしんでその身を修むべし。」とぞのたまひけり。これよりして、孝養ますますまめやかにして、身を終はりにけり。

〔春風〕から。

(注) 至孝 〓 これ以上ないほど孝行なこと。
篤孝 〓 誠実で孝行なこと。

(ア) 〓 線部の主語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 呉二
- 2 母
- 3 妹
- 4 神明

(イ) —線1「しばらく妹の所へ参りたく侍るなり。」とあるが、「呉二」がこのように言った理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 雷に打たれて自分が死ぬ運命を「母」に伝えたならば、心配させてしまうことが明白なため、遠くに住んでいる「妹」に相談して死なずに済む方法を探そうと思ったから。

2 落雷で自分が死ぬ夢を見たことを「母」に悟られたならば、驚かせてしまうことは明らかであるため、上手な伝え方を考えるためにいったん家を離れようと思ったから。

3 自分が家の中で雷に打たれて死ぬことになったならば、「母」を驚かせてしまうだけでなく、息子が目の前で死ぬことにより悲しみも深くなるに違いないと思ったから。

4 自分が家にいるときに落雷によって死ぬことになったならば、「母」を悲しませてしまうだけでなく、あとから話を聞いた「妹」の嘆きも強くなるだろうと思ったから。

(ウ) —線2「おのが家へぞ帰りける。」とあるが、「呉二」がこのようにした理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 昼近くになったときに、だんだんと周りが暗くなって雷が鳴り始めたので、「母」と野へ避難して身をひそめていたが、しばらくして雷鳴も黒雲もなくなったため、雷の被害を逃れたと感じたから。

2 昼近くになったときに、家の周りに黒雲が現れて雷鳴が何度も響いたので、一人で家を飛び出して草むらに隠れていたが、すぐに雷鳴が止み晴天になったため、急に家のことが心配になったから。

3 昼近くになったときに、周囲が暗くなった途端に家の近くに雷が落ちたので、「母」だけは助けたいと自分は外に出て祈っていたが、急に雷が止んで黒雲も晴れたため、祈りが通じたと思ったから。

4 昼近くになったときに、周囲が急に暗くなり雷鳴が繰り返し聞こえたので、野へと走り出して草の上にひざまずいていたが、しばらくして晴天に戻ったため、天罰を受けずに済んだと安心したから。

(エ) —線3「宿悪をなだめ給ふなり。」とあるが、それを説明したのものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 子を思う「母」の愛に「天帝」は感嘆し、二人がともに生きられるようにしたこと。

2 「呉二」の孝行なふるまいに「天帝」は感動し、運命を変えて生かすことにしたこと。

3 子と別れる「母」のつらさに気づいた「天帝」は哀れみ、罰するのを延期したこと。

4 「呉二」の突飛な行動を見た「天帝」はあきれ果てて、罰する気持ちが失せたということ。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 雷に打たれて死んでしまう運命を回避した「呉二」は、日頃の行いを反省し、「母」を大切にすることを誓った。

2 前世で犯した罪が許されることになった「呉二」は、「神明」の言葉に従っていっそう孝行に励み、生涯を終えた。

3 「母」を捨てて逃げた「呉二」は、前世からの罪を償う必要があると思ひ直して家へ戻り、懸命に修行を積んだ。

4 修行に励んでいた「呉二」は、祈りの力で雷の被害を最小限に食い止めたため、「神明」から信心深さを評価された。

(問題は、これで終わりです。)

